お寺のそもそも…論

普段　何気なく感じていたけど…
ズバッと聞きたい、今さら聞けない…

モヤモヤを
すっきりさせよう！

令和２年度　檀信徒研修会特別資料

ごあいさつ

今年は、コロナ禍によって皆さんの生活も大きく変化したのではないでしょうか。日本では、感染予防と経済の再生の両面で課題解決に向けて動いています。それでも、他県への用務は控えておられる方も多いかと思います。

お寺を取り巻く状況も変化してきました。法事は、ごく身内だけ、葬儀も家族葬、お寺の行事の参加も減ってきています。そんな中、お寺の存在や宗教の有り様も変化しています。従来の形から私たち僧侶こそが、この閉塞した社会に向けて働きかけていくことが必要だと思っています。

例年、檀信徒研修会という行事を行っておりました。檀信徒の皆様に分かりやすいお話を真言宗豊山派の布教活動の第一線で活躍する布教師にお願いして参りました。しかし、本年は、コロナ禍で実施が不可能になってしまいました。そこで、檀信徒皆様がお寺に関することを、普段何気なく感じていたことを、ズバッと聞きたいけど、今さら聞けないとモヤモヤしていることにお応えできるように「お寺のそもそも・・・論」を企画いたしました。

たぶん御檀家の皆さんが、聞きたいと思う「宗教」って？から「本山」って？にいたる十の項目を挙げました。右側は、そもそも○○とは何かを説明し、左側は、○○について「住職のつぶやき」として我々僧侶がどう思っているかを見開きで読みやすいように綴ってあります。

コロナ禍で、私たち僧侶も「困った。困った。」とばかりいうのではなく、こんな時こそ出来ることがあるのでないかという思いで検討を重ねて参りました。

まずは、目次を見て、知りたい項目から読んで頂いて結構です。この冊子をもとに菩提寺の住職と話し合って真言宗豊山派の魅力を再認識してもらえれば幸いです。

真言宗豊山派越後宗務支所
支所長　小林　知明

お寺のそもそも・・・論

目次

1 そもそも「宗教」って？……4
2 そもそも「菩提寺」って？……6
3 そもそも「檀家」って？……8
4 そもそも「葬式」って？……10
5 そもそも「追善供養（追善回向）」って？……12
6 そもそも「位牌」って？……14
7 そもそも「合掌」って？……16
8 そもそも「お布施」って？……18
9 そもそも ウチは何宗なの？……20
10 そもそも「本山」って？……22

1 そもそも「宗教」って？

世界三大宗教（実は日本だけで使われている言葉です）といえば、「仏教」「キリスト教」「イスラム教」。他にも国ごと、地域ごとに様々な宗教がありますが、まず「宗教」って何でしょう？

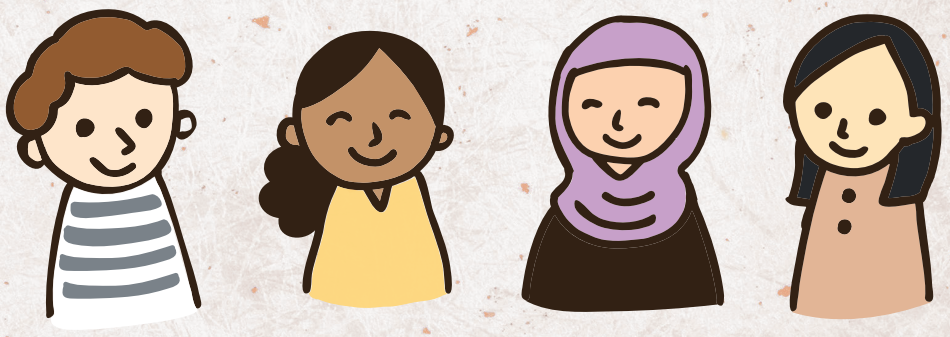
宗教の「宗」は「おね」とも読み、「おおもとの」「根本の」という意味があります。つまり「自分の中心を貫く芯棒となる教え」それが宗教といっていいでしょう。

良い作物や木々を育てるためには良い「土作り」が欠かせません。魚がよく育ち、たくさん捕れるところには豊かな「水」があります。立派な人間を育てるためには、しっかりとした「宗教」が必要になるのです。宗教と聞くと何か硬いイメージを持たれるかも知れませんが、そんな事はありません。あなたの「おおもと」になるもの、それが宗教です。

住職のつぶやき

海外に行ったら「私は無宗教です」という言葉は言わない方がいいですよ。

信仰を持っていないということは、海外の人から見ると自分には芯棒がない、自分の国や歴史を知らないと言っているに等しいことだからです。英語をはじめ外国語が話せるのは大切ですが、それ以上に大切なのは、自分の国の歴史や信仰を愛し、堂々と語れることなのですよ。

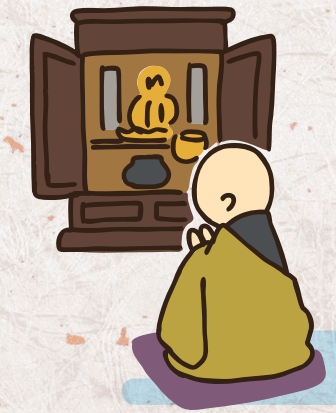


2 そもそも「菩提寺（ぼだいじ）」って？

菩提とは、サンスクリット語（インドの古い言葉）の音写で、迷いのない悟りの境地のことをいいます。

その下に「寺」がついて「菩提寺」。その菩提寺を代々信仰し、たよりにしてお葬式や法事をお願いし、またそのお寺を支えていく家庭を「檀家」と呼びます。

菩提寺は檀家のご先祖を日々丁寧に供養します。各家のご先祖は菩提寺のご本尊さまに守られ、導かれて悟りの世界「菩提」に至るのです。



住職のつぶやき

「お寺とお付き合いするの大変じゃありませんか？」そんな質問をされたことがあります。

菩提寺をもつということは、代々、行事に参加したり、寄進をして、菩提寺を守っていくということです。

しかし、普段から住職がお仏壇にお参りに来てくれたり、また皆さんもお寺のご本尊さまにお参りに行ったり、お茶飲み話をしたり、そういう事を繰り返していると自然と信頼関係が築けます。どこの家庭でも、長い年月の間には良い時もあれば悪い時もあります。菩提寺があると、「いざという時」に必ず力になってくれるでしょう。

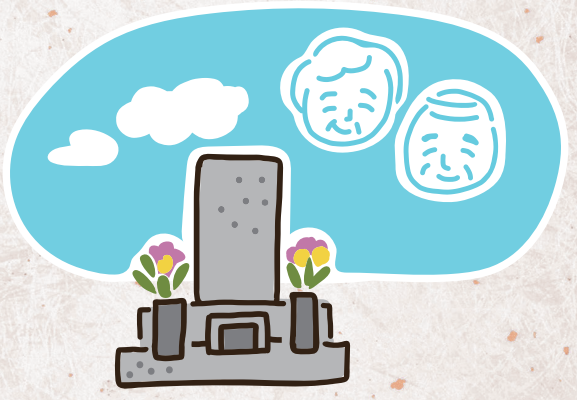
3 そもそも「檀家」って？

檀家とは、菩提寺の護持を支える家、世帯のことをいいます。

ですから、檀家はお寺の伽藍（寺院の建物）の維持、経営などを助けることが勤めとなります。檀家のシステムは江戸時代に定着し現在に至っています。菩提寺の項にもありますが、檀家は菩提寺の経営、護持を担い、菩提寺は檀家の葬儀を執り行い、供養を長く、丁重におこないながら、仏教を分かりやすくお伝えしていかねばなりません。

住職のつぶやき

檀家になってお寺の行事に参加したり、住職とお話ししたりすると、様々な仏さまの教えや先人達の教え、生きるための智慧に触れることができます。今では公園墓地や霊園などにお墓を建て、特定の菩提寺を持たず、檀家とならないご家庭もありますが、ネットで様々な事を知ることができる時代になっても、古くから伝えられてきた風習や地域の人達の生きざま、ドラマ、故人のエピソードなど、実はお寺に行かないと分からないことがたくさんあるのですよ。



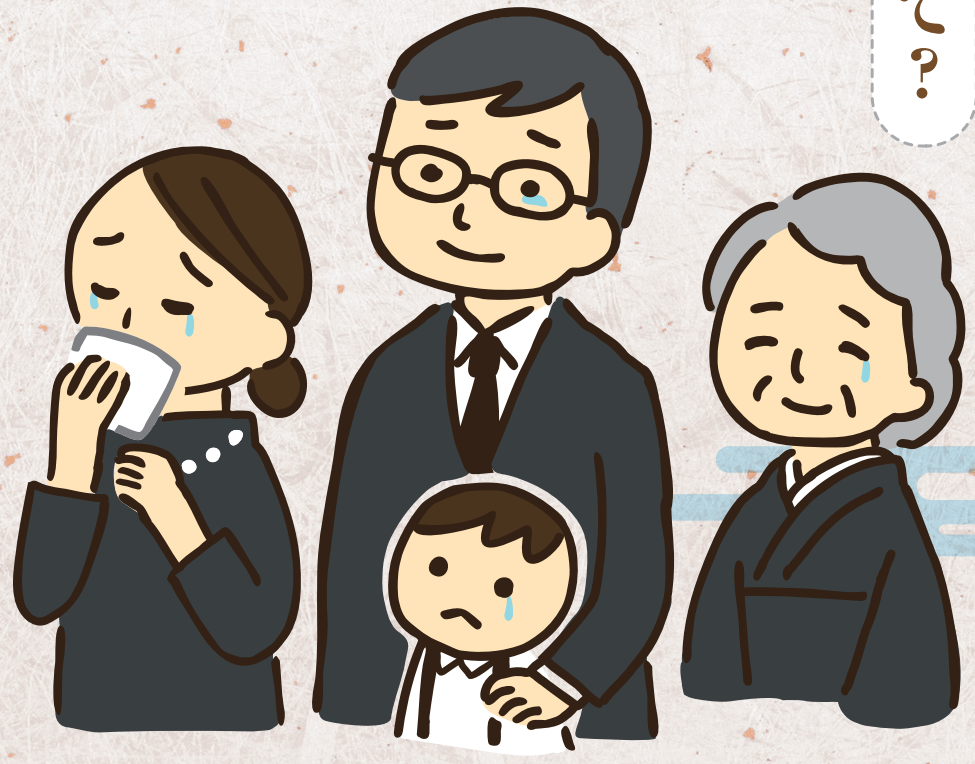
4 そもそも「葬式」って？

お葬式になると様々な儀礼がともないますが、そもそも葬式とは何でしょう？

ひとことで言えば「死者をあの世に送り出す儀礼」です。

真言宗の場合、死者の御霊に「引導」を渡すことが重要なポイントとなります。剃髪の儀（お頭剃り）によって髪を落とし、戒名を授かり正式に仏さまの弟子となって、仏さまに引き導かれて仏の世界へと向かうというのが葬儀式の意味です。

この「引導」を中心に、地域ごとにさまざまな習俗が加わって現在のお葬式を形作っているのです。



住職のつぶやき

人生には様々なドラマがあります。だからこそ人は節目節目に「式」を執り行います。入学、卒業、結婚等々、たくさんの儀式があります。それは人の意識を変えて新しい道しるべを作ります。お世話になった人達に礼儀を尽くし、別れを告げて、仏門に入って新しい旅路にでる・・・それが葬儀式。故人を育てていただいた、歴史ある風習の中で執り行ってさしあげるのが最上の供養だと思います。

5 そもそも「追善供養（回向）」って？

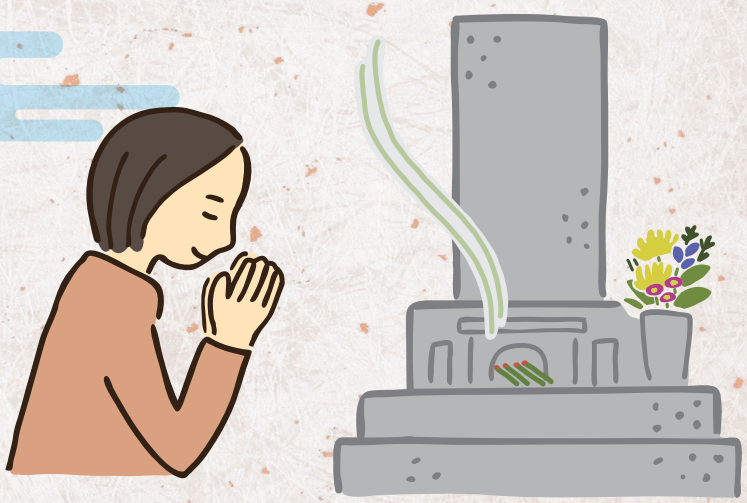
追善供養（回向）の「追善」とは善を追加すること、「回向」とは「廻し振り向ける」ことを意味します。私達がどんな小さな事でも善い行いをすること、それが供養、回向になるのです。真言宗を開かれた弘法大師空海さまは、供養するための善き行いのひとつとして「般若心経を書写すること」「僧侶を招いて読経をお願いすること」を『性霊集』という著書の中で説いています。

若い方々からは「僧侶に読経をお願いして本当に供養になるのですか?」と、ズバリ問われることもあります。ただ、これは理論証明できる類いのものではありません。弘法大師空海さまから脈々と伝えられてきた深く、重みのある教えなのです。

初七日、四十九日など七日ごとの供養、一周忌や三十三回忌などの年忌法要、これらはすべて追善供養（回向）になるのです。

住職のつぶやき

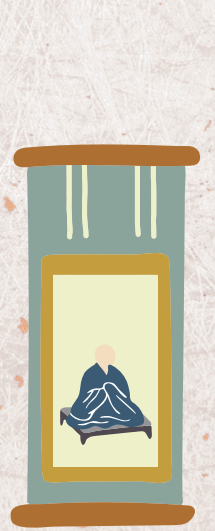
葬儀や追善供養を日々行っていて常に感じていることがあります。「人は情の生きものだ」ということです。私達は日々、根拠や理論理屈を前提に生活をし、実際それが科学の発達にも繋がり、生活を豊かにしてくれます。しかし、理論の反対側には必ず「情」の世界があります。例えば理屈では人は必ず死ぬと分かっていても、親しい人が亡くなれば、どうしようもない気持ちになるのが人間です。そういうものを葬儀や法事は不思議と解決してくれているように思えるのです。



6 そもそも「位牌」って？

お仏壇のあるお宅には、ご本尊様の脇や下付近にたいてい位牌があることでしょう。

「位牌」とは、もともと儒教や神道を起源とする諸説がありますが、故人の霊が宿るものとして江戸時代に庶民に普及しました。位牌にも白木の内位牌、野辺送りにもっていく野位牌、金箔や黒漆など、塗りの位牌、また何枚かの板が収納できる繰出し位牌などの種類があります。その扱い方には地域ごとに様々な風習があります。



住職のつぶやき

全国各地にはその地域ごとの様々な風習があります。位牌は「故人の御霊が宿るもの」として覚えておかれると良いでしょう。

形見分けならぬ、位牌分けと言って、親の位牌は子供の数だけ作り配布していたこともありますし、今でも行っている地域もあるでしょう。位牌の扱いで困ったことがあれば、菩提寺のご住職に聞くのがベストです。

7 そもそも「合掌」って？

顔や胸の前で両手の掌をあわせることを「合掌」といいます。敬礼のひとつであり、インドやスリランカ、南アジアの諸国では顔をあわせた時にはお互いに合掌します。日本でいうお辞儀と同じだと言っても良いでしょう。日本でいう「合掌」とは、仏教徒が仏さま、ご先祖さまに対して礼拝する際の礼法となります。また経典の注釈書によると、両手を合わせることは、精神の散乱を防いで心をひとつにするためである・・・と説かれています。

金剛合掌

住職のつぶやき

ひとことで合掌と言っても、実は十二種類ほどの合掌の仕方があるのですよ。

真言宗では両手を合わせ、十指の上節を、右指を上にして交互に組み合わせる「金剛合掌」という合掌を基本としています。右手が仏さま、左手は自分自身、仏さまと私とは別々でなくひとつであり、揺らぐことのない、深い結びつきを表す合掌です。ご法事などの際、住職がどのように合掌しているか、よくご覧になってみてください。

胸の前で手を合わせると、自然と心も真ん中に集まります。日常生活では物事が偏りやすいことが多々あります。合掌する習慣をつけるということは、偏りがちになる自分自身を修正、見つめ直させてくれる、先人達からの生きる智慧のひとつと言っても良いのかもしれませんね。

8 そもそも「お布施」って？

ちょっと硬い言葉になりますが「布施」とは、「出家修行者、仏教教団、貧窮者などに財物その他を施し与えること」（岩波仏教辞典）そして「三施」といって、金銭、衣食などを与える「財施」、仏教の教えを説き伝える「法施」、抱えている恐れを取り除いてあげる「無畏施」というものもあります。お布施イコールお金、と多くの方は考えるでしょうが、もちろんそれも正しいのです。ただ気をつけましょう。お布施は「料金」ではないということです。

布施という行為は功徳を積む行動であり、施す者も施される者も、施す物に対しても、そこに執着をすると布施ではなくなってしまうのです。檀信徒の浄財（財施）をいただいて寺院は護持され、皆がしっかりと仏法を説き伝え（法施）、人々の畏れ、不安を取り除いてさしあげる（無畏施）。布施とは、僧侶も檀信徒もすべての人が取り組むべき仏教の教えなのです。

住職のつぶやき

働き盛り、特に三十代～五十代の方々とお話していて、よく耳にすることがあります。「これをすることで、何か良いことがあるのですか？自分たちのメリットは？」と。自分たちがおこなう行為に対して常に「見返り」を求めているのです。子供や家庭を守らなければいけない立場であれば、そのように考えるのはごく当然でしょう。そう聞かれれば「布施をすれば功徳が積めますよ」と答えますが、おそらく心には響かないでしょう。

しかし世の中がこれだけ豊かで便利になっているにも関わらず、不登校、心の病にかかる人たちは増える一方なのです。執着することのない「布施」の行為にこそ、何かヒントがあるように感じます。

9 そもそも ウチは何宗なの？

自分の菩提寺の宗派をすぐに答えられる人は少ないでしょう。

この冊子を手にとっておられるあなた、この冊子は「真言宗豊山派」の越後宗務支所から発行されています。そして家のお仏壇のご本尊さまの名前が分かりますか？おじいさんやおばあさん、お父さんお母さんに聞いてみてください。分からなければ菩提寺のご住職に遠慮なく聞いてください。

インターネットで調べれば、宗派ごとのご本尊さまはすぐに分かります。しかし、地域ごとの長い歴史、伝統の中で様々な仏さまが信仰され、人々の心の拠り所となってきました。私は真言宗だから、ご本尊さまは大日如来でなければ間違っている、というわけではありません。弘法大師さまの曼荼羅思想のように、すべての仏さまはつながっているのです。

菩提寺の宗派、菩提寺のご本尊さま、家のお仏壇のご本尊さまのお名前くらいはぜひ覚えておきましょう。

住職のつぶやき

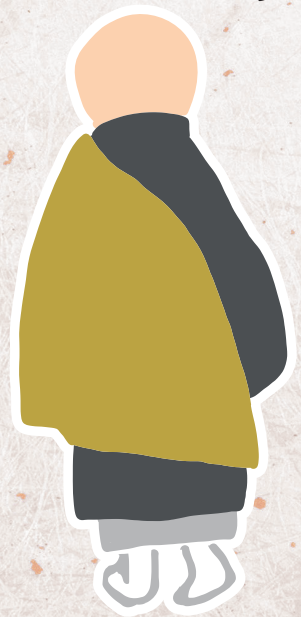
大日如来、阿弥陀如来、不動明王、観音様・・・真言宗、天台宗、浄土宗、曹洞宗・・・日本の仏教には実にたくさんの仏さまや宗派があります。キリスト教やイスラム教でも、実はたくさんの宗派があります。どちらが良いとか悪いとかではありません。他者を認め、山や川や石ころひとつ、カエルの鳴き声の中にすら神仏を見いだし、感じることができるのが仏教なのです。これってとても豊かなことだと思いませんか。

10 そもそも「本山」って？

真言宗豊山派の総本山は奈良県桜井市の長谷寺です。

真言宗には大きくわけて十八の派があり、それぞれに本山があります。「同じ真言宗なのに何故？」と思われるでしょう。

弘法大師空海さまによって真言宗が開かれてすでに一二〇〇年がたちました。この長い歴史の間には、現代のようにインターネットも新幹線もありません。戦国戦乱の時代もありました。立派に修行を積まれた僧侶が真言宗の教えを伝えるために各地に赴き、新たな一派が生じてくるのもごく自然の流れであります。長谷寺は専誉僧正という高徳な僧侶が入山したことから真言宗豊山派の総本山となりました。



住職のつぶやき

総本山長谷寺のご住職（最高職）のことを「能化」とお呼びします。長谷寺は牡丹の花で有名なお寺ですが、私が修行時代、牡丹が満開の時に、あるテレビ局の取材があり、インタビュアーが能化さまに「拝観している方は牡丹の花を見に来ていて、お参りに来ているわけではないのですよね？」という質問をしました。能化さまは「それでいいんだよ。ご覧なさい。牡丹の花を見ながら登廊を上がっていくと、最後には誰しもが観音さまの前で手を合わせているでしょう。そういうものなのだよ」と答えられました。若い私は「すごい」と思いました。

若いうちは色々と分からないことも多い、信じろと言われても難しい、けれどそれでいい・・・最後には皆分かる時が来るのだろう。

お寺のそもそも…論

《参考文献・資料》 岩波仏教辞典・密教辞典・真言宗豊山派季刊誌『光明』光明随想
《監修者》 桑原康年・澁谷隆阿・諸橋精光・吉田真澄
《発行日》 令和３年２月21日
《発行者》

真言宗豊山派 越後宗務支所

〒945-0101　新潟県柏崎市長崎803 金泉寺内
TEL.0257(23)8851　FAX.0257(47)7227

※無断転載を禁じます。

越後宗務支所について

真言宗豊山派の越後(佐渡を除く新潟県)の寺院を管轄し、宗派の事務手続き、青少年や檀信徒の研修会の開催、僧侶の資質向上のために活動しております。
支所ホームページからも様々な情報発信をしておりますので、是非訪れてください。

https://buzan-echigo.org/

ホームページ